

特別展

2012 年度卒業式 2013 年度入学式

創立者・水田三喜男の遺志を引き継ぎ、学校法人城西大学理事長を 27 年つとめ、城西大学女子短期大学部、城西国際大学を開学し、大学を大きく発展させてきた水田清子名誉理事長が、平成 25 年（2013）1 月 4 日に逝去されました。

名誉理事長の逝去にあたり、創立者、名誉理事長ともに長く大切にし、愛でてきた上村松園《美人納涼図》、楠木清方《富士額》、伊東深水《春の夕暮》を、大学美術館へ寄贈いたしました。水田コレクションに、この近代を代表する 3 人の画家の優美な美人画が新たに加わり、初期浮世絵から近代までの美人画の流れをたどることのできる内容が、さらに充実したものになりました。

このたびの展覧会では、水田清子名誉理事長が遺した多大な功績を偲び、在りし日の姿を写真パネルで振り返り、俳人としても高名だった名誉理事長の俳句や書を紹介します。あわせて、新たに寄贈された 3 点を初公開するとともに、水田コレクションより、近代日本画の名品を展示します。

心よりご冥福をお祈りし、多くの方に慕われた水田清子名誉理事長を偲んでいただければ幸いです。

学校法人城西大学理事長・水田美術館館長 水田宗子

◆水田清子名誉理事長の足跡

明治 45 年（1912）	1 月 8 日、東京市に生まれる。
昭和 4 年（1929）	東京府立第八高等女学校卒業。
昭和 9 年（1934）	水田三喜男と結婚。
昭和 47 年（1972）	学校法人城西第二学園理事長に就任。
昭和 51 年（1976）	学校法人城西大学理事長に就任。
昭和 58 年（1983）	城西大学女子短期大学部を開学。
平成 4 年（1992）	城西国際大学を開学。
平成 14 年（2002）	水田三喜男生家を修復・保存。
平成 16 年（2004）	学校法人城西大学名誉理事長に就任。
平成 17 年（2005）	東京紀尾井町キャンパスを開設。
平成 18 年（2006）	城西国際大学安房キャンパスを開設。
平成 25 年（2013）	1 月 4 日、老衰のため逝去。享年 100。

俳句を勝又一透、富安風生、清崎敏郎、岡本眸に師事。
城西国際大学の東金俳句会で講師を長く務める。
俳人協会名誉会員、俳誌「若葉」、「岬」、「朝」同人。
句集『白鳥』（1978）、『高麗堤』（1988）、『石路の花』（1988）、『安房山』（1997）、『九十九里』（2010）刊行。

 **城西大学水田美術館**
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1 【お問合せ】049-271-7327
<http://www.josai.ac.jp/~museum/>

 **城西国際大学水田美術館**
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
〒283-8555 千葉県東金市求名 1 番地 【お問合せ】0475-53-2562
<http://www.jiu.ac.jp/museum/>

水田清子名誉理事長を偲んで 水田コレクション近代日本画の名品とゆかりの品々



水田清子書俳句色紙

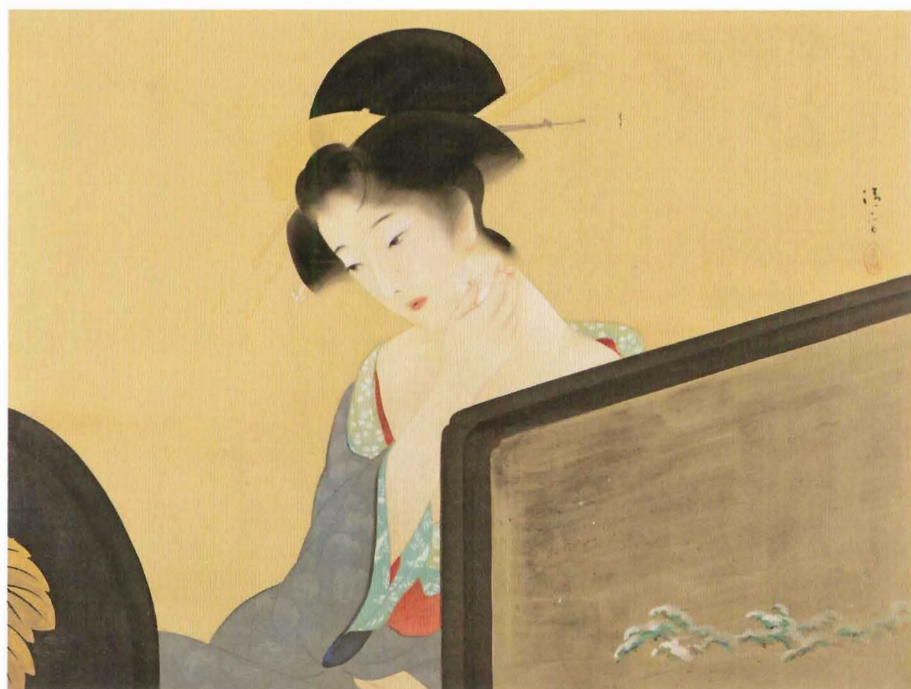


水田清子書

新収蔵品初公開 水田家寄贈の美人画3点を展示します

水田清子名誉理事長を偲んで

水田コレクション近代日本画の名品とゆかりの品々



浮世絵の伝統を受け継ぎ、失われつつある江戸情緒を細やかに再現してみせた鏑木清方。東京の下町で育った清方は、挿絵画家として出発し、情緒的で文学性に富んだ女性像を描き、官設展に出品して画壇での地位を築きました。東の美人画の大家・清方に対し、上村松園は京都画壇を代表する美人画家です。四条派の流れをくみつつ、浮世絵や伝統芸能、古典文学に親しみ、市井の人々だけでなく物語や謡曲に題材をとり、清明で格調高い女性像を描きました。そして、清方に学んだ伊東深水は、豊かな色彩感覚と鋭い感性で同時代の風俗を捉えた作品を描き、高く評価されています。

楚々として清らかな女性美を描く清方、凛とした優雅な女性像を示す松園、個性ある現代の女性像を求めた深水——近代的な写実を取り入れつつも、それぞれが理想とする美人像を追求しています。

鏑木清方（かぶらききよかた、1878～1972）《富士額》——上

絹本着色、54.0×71.5 cm

鏡を前に白粉をはたく女性。「富士額」は清方自身による題で、女性の形の良い額と衝立に描かれた松に、雪化粧した富士山と三保の松原という伝統的な画題が重ねられているかもしれません。

伊東深水（いとうしんすい、1898～1972）《春の夕暮》——左下

絹本着色、45.8×57.8 cm、昭和12年（1937）

春風が吹く夕暮に、桜が舞い散る中、乱れる髪を抑える女性。深水の鋭い感性で、女性のふとした一瞬のしぐさが巧みに捉えられています。

上村松園（うえむらしょうえん、1875～1949）《美人納涼図》——右下

絹本着色、50.8×57.0 cm、昭和初（1925～34）頃

団扇を手に物思いにふける遊女は、安永から寛政期（1772～1801）の風俗で描かれています。透ける素材の団扇や薄物の打掛が涼しげな印象を与えています。

